

平成 22 年度 普及に移す農業技術（第 2 回）

[分類] 普及技術

[成果名] キャベツ、はくさいの根こぶ病防除にオラクル粉剤が有効である

[要約] キャベツおよびはくさいの根こぶ病防除にオラクル粉剤を 10a 当たり 30kg の割合で定植前全面土壌混和する。

[担当] 野菜花き試験場佐久支場、環境部

[部会] 病虫部会

1 背景・ねらい

キャベツおよびはくさいの根こぶ病は、防除対策が必須となる重要病害である。本病を防除するため効果の高い薬剤を選定するとともに、キャベツおよびはくさいに対する薬害の有無を検討する。試験は平成 17 年および 18 年に実施し、平成 22 年に農薬登録されたため、今回普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

(1) キャベツおよびはくさいの根こぶ病防除に、オラクル粉剤を 10a あたり 30kg の割合で定植前全面土壌混和する。

農薬登録内容

オラクル粉剤

[一般名および成分含有量] アミスルプロム 0.5%

[毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] C 類

[対象作物に対する適用登録状況（平成 23 年 1 月 4 日現在 JPP-NET 確認）]

作物名	適用病害名	使用量	使用方法	使用時期	使用回数	アミスルプロムを含む農薬の総使用回数
キャベツ	根こぶ病	30kg/10a	全面土壌混和	定植前	1 回	6 回以内（但し、土壌混和は 1 回以内、灌注は 1 回以内、散布は 4 回以内）
はくさい						

3 利用上の留意点

- (1) 本剤は、根こぶ病菌の遊走子に対して殺菌効果を示す新規の殺菌成分を含んでいる。
- (2) 水産動植物に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼および養殖池に飛散、流入するおそれのある場所では使用しない。
- (3) 根こぶ病対策は、殺菌剤による防除だけでなく、土壌酸度の矯正、圃場の排水性向上等の耕種的防除を可能な限り組み合わせる。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

キャベツ根こぶ病に対する防除効果および薬害について、平成 18 年に野菜花き試験場環境部で試験した。本剤の 10 a あたり 30kg 定植前全面土壌混和は対照のフロンサイド S C と比較して同等の高い防除効果であった（表 1）。薬害は認められなかった。

表1 キャベツ根こぶ病に対するオラクル粉剤の防除効果（平成18年、野菜花き試験場環境部）

供試薬剤	処理量	調査株数	発病株率(%)	発病度	防除価	薬害
オラクル粉剤	30kg/10a	15.0	8.9	2.9	91.1	なし
フロンサイドSC	原液 500ml/水 150L /10a	15.0	4.4	1.5	95.4	なし
無処理	-	15.0	71.1	32.6		

値は3反復の平均値

試験場所：長野市松代町 野菜花き試験場内圃場 発生状況：中発生 品種：「YRSE」
 定植：5月8日 栽植距離：畦幅50cm、株間40cm 区制・面積：1区10.8㎡ 60株/区 3連制
 処理方法：4月17日（定植前）に所定量の薬剤を全面散布し、混和作畝マルチ被覆した。
 調査方法：7月19日（収穫期）に、各区15株について発病の有無および発病程度を調査した。
 発病指数 0：無発病 1：わずかに根こぶの着生が認められる
 2：根の一部に大きな根こぶが着生 3：根系全体に根こぶが着生
 発病度 = ((発病指数 × 株数) / (調査株数 × 3)) × 100
 防除価 = 100 - ((処理区発病度 / 無処理区発病度) × 100)

ハクサイ根こぶ病に対する防除効果及び薬害について、平成17年および18年に野菜花き試験場佐久支場で試験した。本剤の10aあたり30kg定植前全面土壌混和は対照のネビジン粉剤と比較して同等の高い防除効果であった（表2、3）。いずれの試験においても薬害は認められなかった。

表2 ハクサイ根こぶ病に対するオラクル粉剤の防除効果 - 1(平成17年、野菜花き試験場佐久支場)

供試薬剤	処理量	調査株数	発病株率(%)	発病度	防除価	薬害
オラクル粉剤	30kg/10a	20.0	35.0	12.8	68.0	なし
ネビジン粉剤	30kg/10a	20.0	26.7	16.1	59.8	なし
無処理	-	20.0	85.0	40.0		

値は3反復の平均値

試験場所：小諸市山浦 佐久支場内圃場 発生状況：多発生 品種：「優黄」
 定植：6月9日 栽植距離：畦幅50cm、株間45cm 区制・面積：1区16.5㎡ 72株/区 3連制
 処理方法：6月6日（定植前）に所定量の薬剤を全面散布し、混和作畝マルチ被覆した。
 調査方法：7月19日（収穫期）に、各区20株について発病の有無および発病程度を調査した。発病指数および発病度と防除価の算出方法は表1と同じ。

表3 ハクサイ根こぶ病に対するオラクル粉剤の防除効果 - 2(平成18年、野菜花き試験場佐久支場)

供試薬剤	処理量	調査株数	発病株率(%)	発病度	防除価	薬害
オラクル粉剤	30kg/10a	20.0	6.7	1.7	95.0	なし
ネビジン粉剤	30kg/10a	20.0	6.7	1.7	95.0	なし
無処理	-	20.0	96.7	34.2		

値は3反復の平均値

試験場所：小諸市山浦 佐久支場内圃場 発生状況：中発生 品種：「優黄」
 定植：5月25日 栽植距離：畦幅50cm、株間45cm 区制・面積：1区16.5㎡ 72株/区 3連制
 処理方法：5月22日（定植前）に所定量の薬剤を全面散布し、混和作畝マルチ被覆した。
 調査方法：7月18日（収穫期）に、各区20株について発病の有無および発病程度を調査した。発病指数および発病度と防除価の算出方法は表1と同じ。

6 特記事項

[公 開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

東信地域の野菜等に関する素材開発研究（佐久支場）、平成17年度、18年度（2005年度、2006年度）、県単素材開発

野菜・花きの病害虫防除農薬の効果試験（環境部）平成18年度（2006年度）、民間受託